

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202924		
法人名	医療法人社団創平会		
事業所名	グループホームさしかた		
所在地	長崎市佐世保市指方町2216-1		
自己評価作成日	令和6年10月20日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勤務年数が長い職員が多く認知症や高齢者への理解がある。利用者のできることを活かし施設内での手伝いなど日課や役割がある。近隣のグループホームと相談や情報交換を多く行い施設運営に活かしており、合同で研修会を実施し職員の知識や技術向上に繋げている。利用者の体調不良などあれば協力医療機関や訪問看護へ報告行い迅速な対応ができています。施設内での運動など理学療法士や作業療法士の指導や助言をもらい身体能力向上や維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは医療法人が運営し、居宅介護支援事業所、デイサービス訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、指定通所リハビリテーション、デイサービス事業所を併設している。長年勤務する経験豊富な職員が多く所属しており、長年の経験から得られた業務に関する深い知識や技術を若手職員にも伝えながらケアを実践されており、家族を含め管理者も安心感を持つことができています。ホームは自然に囲まれた中で、季節によってはカモの親子が渡り歩く風景や、しらが舞い降り、その姿を入居者の方々が鑑賞し、満面の笑顔が広がっている。また、職員も入居者の穏やかな表情に心が安らいでいる。入居者の健康状態に合わせたきめ細やかな医療のバックアップがあり、医師による定期的な診察や、看護師による健康管理により、入居者は安心して暮らすことができ、家族も安心して任せることができています。職員も、医療的なバックアップ体制があるため、安心して介護業務に専念できています。入居者が最期まで安心して穏やかに過ごせるようサポート体制を整えているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき利用者が生き活きと生活できるよう毎日理念を唱和し意識共有を図っている。	理念に基づき利用者が生き活きと生活できるよう毎日理念を唱和し意識共有を図っている。	毎朝ミーティング時に理念を職員間で唱和し、共有している。理念にある『生き生き』とした生活を入居者が継続して送れるよう日頃の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	対面での運営推進会議を再開し地域の方と情報交換行っている。地域の方と利用者の交流はまだまだ少ない。	対面での運営推進会議を再開し地域の方と情報交換行っている。地域の方と利用者の交流はまだまだ少ない。	コロナ禍以前は、地域との繋がりを構築してきたが、立地上民家が少ないこともあり、地域交流を再開できていないのが現状である。近隣にある大学の社会福祉学科学生の実習受け入れは再開できている。時間はかかるが、徐々に地域に向けての情報発信や交流する機会を増やし、地域との関係を再構築していく方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1、2回近くの大学生との交流はあるが地域の人々に向けての活動はまだまだ足りていない。	年に1、2回近くの大学生との交流はあるが地域の人々に向けての活動はまだまだ足りていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容は詳しく説明できてはいないが、日頃の様子を報告し意見をいただきサービスに反映している。	サービス内容は詳しく説明できてはいないが、日頃の様子を報告し意見をいただきサービスに反映している。	地域の民生委員、地域包括支援センター職員、他事業所の管理者2名、家族が運営推進会議のメンバーである。ホームの状況報告や、地域の情報、他事業所との情報共有、家族の意見等、意見交換し、日頃のサービス向上に活かしている。会議内容を理解してもらえよう家族にも議事録を送付している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営する上で不明な点や不安なことなど相談を行っている。	運営する上で不明な点や不安なことなど相談を行っている。	入居待機者や空床状況等について地域包括支援センターに現状を伝える等、協力関係を築いている。介護保険の申請に必要な書類の準備を行い、市役所や地域の支所で手続きを行っている。介護のスキルアップを目指し、市役所や社会福祉協議会が開催する研修会にも参加を職員に促し幅広い学びに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の同意の上、身体的に危険な動作がある利用者にはベット柵などで拘束を行っている。	家族の同意の上、身体的に危険な動作がある利用者にはベット柵などで拘束を行っている。	ホームで身体拘束や虐待に関する勉強会を行い、意識の共有に努めている。「切迫性」「非代替性」「一時性」の三原則を踏まえ、実施期間を設定した上で家族へ身体拘束に関し説明し、同意の上でベッド臥床時のみ囲み柵の設置やミトンを使用する方がいる。	身体拘束は、三原則を満たしていても、決して常態化させてはならず、全職員が身体拘束の状況を常に把握し、その必要性について定期的に見直し、より良いケアを提供できるよう努めることが求められる。特に、身体拘束をしないための代替策を常に模索し、そのための取り組みを継続していくことが重要と言える。今後、月1回の検討会を通じて、身体拘束をしないための新たな支援方法等、職員間で活発に議論し、より良いケアの提供を目指していくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行い虐待防止について意識共有している。職員のストレスケアを兼ねて個別に面談など話を聞く機会を設けている	施設内で勉強会を行い虐待防止について意識共有している。職員のストレスケアを兼ねて個別に面談など話を聞く機会を設けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見制度など対象者はいない。家族様では利用者の皆回りのお世話や金銭管理が困難な場合は後見人の提案をする場合がある。	現在は後見制度など対象者はいない。家族様では利用者の皆回りのお世話や金銭管理が困難な場合は後見人の提案をする場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約後も疑問や改善点について話し合いができており、契約者家族が納得するまで説明を行っている。	契約後も疑問や改善点について話し合いができており、契約者家族が納得するまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時やサービス見直しの際に要望や意向を聞いている。小まめに普段の様子や報告・相談を行うことで意見を伝えやすい環境作りを目指している	家族には面会時やサービス見直しの際に要望や意向を聞いている。小まめに普段の様子や報告・相談を行うことで意見を伝えやすい環境作りを目指している	家族の面会時に、サービスの利用状況について意見交換を行っている。また、普段から入居者の様子を細かく報告することで、家族がいつでも相談しやすい環境づくりを目指している。意見や要望を聞き取った内容は連絡帳や業務日誌に記録し、職員間の情報共有に活かし、必要に応じてケアプランに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、申し送りなどで提案できる機会を設けている。	職員会議、申し送りなどで提案できる機会を設けている。	職員は、毎月の職員会議や申し送りの機会だけでなく、日々の業務の中で、いつでも管理者に意見を伝えることができる。必要に応じて、管理者は理事長にも意見を報告し、より良いサービスの提供を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料明細は一人一人手渡しし、代表者と顔を合わ話しやすい環境を作っている	給料明細は一人一人手渡しし、代表者と顔を合わ話しやすい環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階 )	実践状況(ユニット名: 3階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り均等に法人内外の研修に参加できるよう機会を設けている。資格取得の希望があればシフトの調整など柔軟な対応をできるようにしている。	できる限り均等に法人内外の研修に参加できるよう機会を設けている。資格取得の希望があればシフトの調整など柔軟な対応をできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設と共同で勉強会を開催し職員間の交流を図っている。外部のグループホームの運営推進会議にも参加している。	近隣の施設と共同で勉強会を開催し職員間の交流を図っている。外部のグループホームの運営推進会議にも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安事など確認している。認知症で上手く表現できない場合は家族にも聞き取り行っている	要望や不安事など確認している。認知症で上手く表現できない場合は家族にも聞き取り行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、利用者の生活歴等を把握し入所後の様子を報告している。サービスについて説明を行い信頼関係を築けるように努めている。	家族からの要望、利用者の生活歴等を把握し入所後の様子を報告している。サービスについて説明を行い信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っている事や自宅で大変だったことを聞き必要な支援につなげている。他のサービスが必要な場合は紹介も行っている。	一番困っている事や自宅で大変だったことを聞き必要な支援につなげている。他のサービスが必要な場合は紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝いや手作業を依頼した時は感謝を利用者に伝えるなど助けあって暮らせるよう配慮している。	手伝いや手作業を依頼した時は感謝を利用者に伝えるなど助けあって暮らせるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を毎月の広報誌や面会時に伝えることで家族の絆や状況の変化を共有できるように努める。	本人の情報を毎月の広報誌や面会時に伝えることで家族の絆や状況の変化を共有できるように努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人の方針で外出や面会は制限を設けている。電話を希望される家族や知人がいれば取り次ぎ行っている。	法人の方針で外出や面会は制限を設けている。電話を希望される家族や知人がいれば取り次ぎ行っている。	新型コロナウイルス感染症の影響により、入居者が家族や友人・知人と直接触れ合う機会が減っているが、以前住んでいた家の周辺をドライブし、思い出を共有する機会を設けることで心身の安定を図ったり、電話や手紙で家族等に定期的に連絡を取るなど、状況に応じた支援を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階 )	実践状況(ユニット名: 3階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴、性格に配慮し穏やかな雰囲気与生活できるような席の位置、関係作りの支援に努める。	個々の生活歴、性格に配慮し穏やかな雰囲気与生活できるような席の位置、関係作りの支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の要請があれば退所後の生活の参考になる情報提供や医療機関の紹介、相談に応じている。	家族の要請があれば退所後の生活の参考になる情報提供や医療機関の紹介、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを第一に考え時には家族の協力を得て可能な限り実現していく	本人の思いを第一に考え時には家族の協力を得て可能な限り実現していく	職員は入居者の日々の言葉や、表情、行動などから、その方の心の状態や、本当に求めていることを聞き取り、理解するように努めている。特に、言葉による意思表示が難しい方に対しては、表情や身振り手振り、声のトーンなど、様々な非言語的なコミュニケーションから、その方の意図を汲み取るよう努めている。それらの情報をケアプランに反映させ、よりきめ細やかな支援を提供できるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、医療機関、ケアマネ、地域からの情報を得てグループホームの生活に反映できるよう努めている	家族、医療機関、ケアマネ、地域からの情報を得てグループホームの生活に反映できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階 )	実践状況(ユニット名: 3階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の居室や共有スペースでの過ごす申し送りや介護記録などで確認し現状の把握に努めている	利用者の居室や共有スペースでの過ごす申し送りや介護記録などで確認し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス実行表にそって毎月評価を行い3か月ごとにケアプラン会議を開催する。現状に合った介護計画でのサービス提供を心掛けている。	サービス実行表にそって毎月評価を行い3か月ごとにケアプラン会議を開催する。現状に合った介護計画でのサービス提供を心掛けている。	入居者一人ひとりの状況や変化に柔軟に対応するため、ケアプランは6か月を長期目標、3か月を短期目標として設定し、定期的に見直している。職員は、担当する入居者の日常生活動作(ADL)などを評価し、家族とも密に連携しながら入居者の意向をケアプランに反映させている。また、連絡帳や業務日誌を活用して、職員間で情報を共有し、ケアプラン会議で検討を重ね、より良いケアプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、訪問看護の記録に本人の様子、気づきを取り入れ、介護計画でのサービスに活かしている。	介護記録、訪問看護の記録に本人の様子、気づきを取り入れ、介護計画でのサービスに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子からアセスメントを行い、今後の課題やニーズをケアプラン会議で見直し、本人らしさを取り入れた計画サービス提供に取り組んでいる	日々の様子からアセスメントを行い、今後の課題やニーズをケアプラン会議で見直し、本人らしさを取り入れた計画サービス提供に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以降地域との関り減っているが近隣の学生との交流やボランティアの依頼を徐々に再開している	コロナ以降地域との関り減っているが近隣の学生との交流やボランティアの依頼を徐々に再開している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回同法人の医師が往診し一人一人にあった指示や処方など適切な医療が受けられている。家族の同意もいただいている。	2週に1回同法人の医師が往診し一人一人にあった指示や処方など適切な医療が受けられている。家族の同意もいただいている。	入居者は母体となる医療機関をかかりつけ医として、2週間に1回の訪問診療や、週1回の訪問看護を受けており、急な体調の変化にも迅速に対応している。また、パワーリハの外部機関と連携し、理学療法士による機能訓練を受けることで、寝たきり防止や、より快適な生活を送れるようサポートしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変があればすぐに看護師や訪問看護師に報告し適切な対応してもらっている。	利用者の異変があればすぐに看護師や訪問看護師に報告し適切な対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携で情報共有に努めている。	医療機関との連携で情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族から重度化した場合の対応を聞き取りを行い、その後、状態低下した時などに改めて意見を聞き柔軟に対応している	入所時に家族から重度化した場合の対応を聞き取りを行い、その後、状態低下した時などに改めて意見を聞き柔軟に対応している	重要事項説明書において医療連携体制における「重度化した場合の対応にかかる指針」を明示し、入居時に説明している。医療機関が母体であることを活かし、主治医が看取り期の判断を行い、家族の意向を尊重しながら、チーム全体でサポートできるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに添って体制を整えている。適宜応急手当、初期対応の研修に参加し定期的に医師・看護師からの指導を身に付けている。	緊急対応マニュアルに添って体制を整えている。適宜応急手当、初期対応の研修に参加し定期的に医師・看護師からの指導を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	当施設独自の災害訓練を行っており隣接する医院からの応援体制もとれている。消防署や設備業者からも災害や避難時の指導や助言をもらっている。	当施設独自の災害訓練を行っており隣接する医院からの応援体制もとれている。消防署や設備業者からも災害や避難時の指導や助言をもらっている。	昼間と夜間の時間帯における様々な災害に対応するため、職員全員が参加する避難訓練を定期的実施している。消防署の指導のもと、消火器を使用した訓練を行い、職員一人ひとりが有事の際の初動対応の習得に努めている。また、シフトごとに役割分担を決め、毎朝の申し送り確認することで、全員が自分の役割を明確に把握し、迅速な行動ができる体制整備に取り組まれている。	BCPの作成は完了されているが、BCPに基づいた訓練の実施ができていない状況である。今後、BCPを共有するための研修の定期的な実施を含め、机上訓練によるシミュレーション、実地訓練の実施等、計画的に行うことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員が主体となって毎月の目標を掲げ申し送り時に呼称している。その中にプライバシーの保護に関する内容も取り入れ毎月の反省もとに目標を考えている。	接遇委員が主体となって毎月の目標を掲げ申し送り時に呼称している。その中にプライバシーの保護に関する内容も取り入れ毎月の反省もとに目標を考えている。	入居者一人ひとりと丁寧に向き合うため、職員全員が接遇目標を共有し、毎朝の申し送り確認することで、意識の統一を図っている。プライバシー保護にも配慮し、日々の支援の中で、言葉遣いや声かけ、行動一つひとつに気を配ることで、より良いケアを提供できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の意向を尊重している。自己決定が困難な場合は家族と相談し判断している。	可能な限り本人の意向を尊重している。自己決定が困難な場合は家族と相談し判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活感を尊重し希望も汲み取りできる限り自由に過ごせるよう支援している。	一人一人の生活感を尊重し希望も汲み取りできる限り自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り入所前に好まれていた服装を尊重しており、自力でおしゃれができない方は外出時や行事などその場に合った衣類を選んでいる。	できる限り入所前に好まれていた服装を尊重しており、自力でおしゃれができない方は外出時や行事などその場に合った衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事の際など利用者の好みなど聞き取り事前に準備するように心掛けている。調理は一緒に出来ていないがお盆拭きなど簡単なことは依頼している。	誕生会や行事の際など利用者の好みなど聞き取り事前に準備するように心掛けている。調理は一緒に出来ていないがお盆拭きなど簡単なことは依頼している。	ホームでは、食材は専門業者に委託し、調理の一部を職員が行っている。汁物や炊飯は、職員が手作りで提供している。誕生会や行事食では、事前に入居者の方の希望を聞き、好みの食事を提供することで、食事の時間をより楽しんでもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の食事量の把握、水分摂取が難しい利用者には職員間で話し合い統一したケアを提供	3食の食事量の把握、水分摂取が難しい利用者には職員間で話し合い統一したケアを提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態本人のできる力を活かし口腔ケア促している。必要に応じ訪問歯科も依頼している	口腔状態本人のできる力を活かし口腔ケア促している。必要に応じ訪問歯科も依頼している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握することで排泄の失敗は少なく、オムツ類の使用も少なくできるよう心掛けている。	排泄パターンの把握することで排泄の失敗は少なく、オムツ類の使用も少なくできるよう心掛けている。自力でトイレに行ける利用者が継続できるよう下肢筋力の維持のため運動促している。	入居者の排泄に関する情報は、日々の記録に基づき、入居者一人ひとりの排泄間隔を把握している。職員はその情報をもとに、適切なタイミングでトイレへ誘導し、快適な排泄をサポートしている。また、排泄用品は、入居者の方の排泄量に合わせて種類や量を検討し、最小限の汚染で済むよう、適切な排泄ケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携をとり一人一人の状態を報告し服薬調整し便秘予防に努めている。腸の働き改善のためカルピスを提供している利用者もいる。	医療機関と連携をとり一人一人の状態を報告し服薬コントロールを行っている。足上げや歩行運動など促し便秘改善を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員体制もあり曜日や時間帯はほとんど固定してしまっている。個々の支援ができるよう今後検討していく	人員体制もあり曜日や時間帯はほとんど固定してしまっている。個々の支援ができるよう今後検討していく	入居者が、清潔な状態で過ごせるよう、週に2回の入浴を計画している。体調不良や入浴を拒否される場合は、その日の体調や本人の希望を考慮し、入浴の曜日を変更したり、身体の清拭を行うなど、個々の状況に合わせたケアを提供している。今後、一人ひとりのニーズに合わせた入浴支援を目指していく意向である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の気分に合わせて臥床してもらう時間を設けている。朝が弱い方には遅めに離床介助行っている。	利用者の気分に合わせて臥床してもらう時間を設けている。テレビをつけたままのほうが安心して入眠する利用者にはテレビつけたままにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも確認把握できる状態にしている。状態の変化があれば医師や訪問看護に伝え指示を仰いでいる。指示の内容も記録にて周知している。	薬の説明書をいつでも確認把握できる状態にしている。状態の変化があれば医師や訪問看護に伝え指示を仰いでいる。指示の内容も記録にて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を活かし役割を持って生活できるよう依頼している。職員と一緒に説明しながら手作業することも多い。	個々の残存機能を活かし役割を持って生活できるよう依頼している。職員と一緒に説明しながら手作業することも多い。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以降まだ外出の機会は減っているが、可能なかぎり要望のある場所へドライブなど行っている。家族や地域との協力はあまりできていない	コロナ以降まだ外出の機会は減っているが、可能なかぎり要望のある場所へドライブなど行っている。家族や地域との協力はあまりできていない	コロナ禍の影響で、従来通りの外出支援は難しい状況であるが、入居者の外出の機会を確保するため、クルーズ船の観覧やドライブなどの外出支援を行っている。また、車椅子を利用する方には、駐車場で外気浴や日光浴の機会を設けるなど、個々のニーズに合わせた支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は家族管理であるものの、数名の利用者は自分で所持している。外出の機会が少ないため職員が代わりに買い物することが多い。	ほとんどの利用者は家族管理であるものの、数名の利用者は自分で所持している。外出の機会が少ないため職員が代わりに買い物することが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などは手渡したり読み聞かせている。電話は取り次ぎや着信していることを伝えることで家族と電話できている利用者がいる。	手紙などは手渡したり読み聞かせている。電話は取り次ぎや着信していることを伝えることで家族と電話できている利用者がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりカレンダー、壁画飾りなどで季節を感じられるように努めている。居室、フロアの遮光調整、室温など環境整備に配慮している。	日めくりカレンダー、壁画飾りなどで季節を感じられるように努めている。居室、フロアの遮光調整、室温など環境整備に配慮している。	入居者が心地よく過ごせるよう、季節感あふれる環境づくりに努め、フロアや廊下には季節の飾り付けを施し、日めくりカレンダーを用いて日付の確認を行うことで、入居者の認知機能の維持・向上を支援している。また、感染症対策として、有事の際の職員の役割分担に基づき、手すりや椅子など、入居者が頻繁に触れる箇所等を次亜塩素酸水で拭き掃除し、感染予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 2階)	実践状況(ユニット名: 3階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者を同じテーブルにするなど配慮している。一人で過ごすことが好きな方には居室で過ごす時間を設けている。	気の合う利用者を同じテーブルにするなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に生活されていた時の物の配置など家族から聞き柔軟に対応している	入所前に生活されていた時の物の配置など家族から聞き柔軟に対応している	入居の際に、本人のお気に入りの家具や思い出の品など、身の回り品が持ち込めることを説明している。自身の持ち物に困まれることで、各居室がその人らしい居室となるよう努めており、観葉植物を専用棚で育てたり、家族やペットの写真を飾るなど、心安らぐ空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを伝えて移動する利用者もいるため施設全体的に手すりを多く設置してある。	手すりを伝えて移動する利用者もいるため施設全体的に手すりを多く設置してある。		